IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

岩手医科大学報

2018. 12 No.507

主な内容

特集――矢巾新病院 工事進捗見学会レポート
トピックス――医学教育分野別評価による実地調査が行われました
募金状況報告
フリーページ――すこやかスポット薬学講座No.15
「保険薬局における医療用麻薬の供給体制の調査研究」

表紙写真：**附属病院外来ロビーのクリスマスツリー**（2018.12.12 撮影）

Iwate Medical University

特集

矢巾新病院 工事進捗見学会レポート

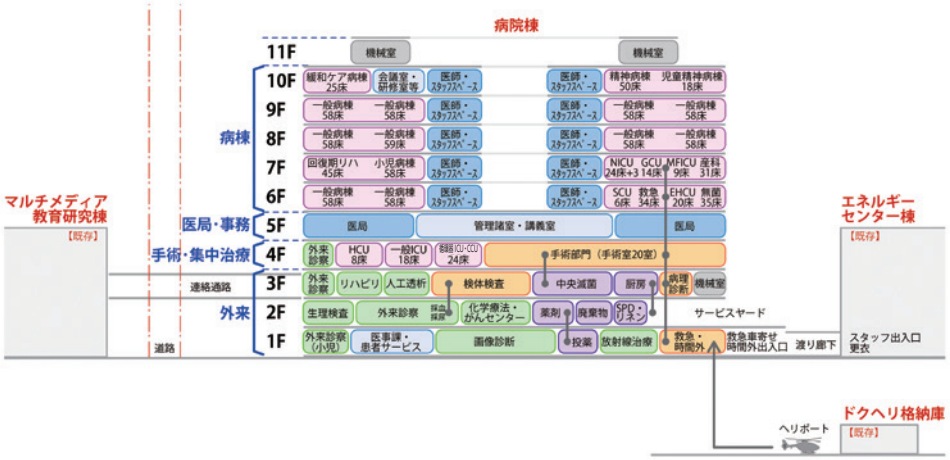
平成 30 年 10 月 29 日（月）に本法人理事による矢巾新病院の工事進捗見学会が行われました。今回の特集では来年９月に開院を控え、着々と進む新築工事の進捗見学会の様子について紹介します。

見学会スケジュール　平成 30 年 10 月 29 日（月）／くもり／15：45 ～ 16：25

見学行程

1. 工事用エレベータで9階へ
2. 9階フロアの見学
（東側デイルーム、一般病棟、南側スタッフステーション）
3. 1階フロアの見学
（エントランス、外来診察室、救急車両出入口、救急処置室）

フロア図



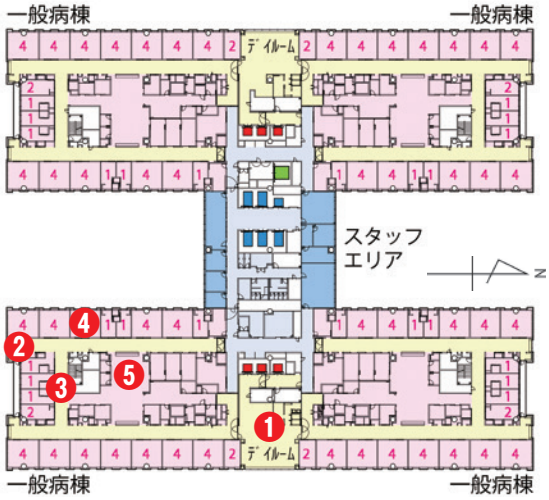
見学開始

見学者を乗せたバスは、矢巾新病院北側に到着し、これから見学が始まります。

9 階フロア見学

9階フロアは東側デイルーム、南側スタッフステーション、一般病棟エリアを見学しました。展望スペースでは周囲に視界をさえぎる建物がなく、素晴らしい見晴らしでした。

また、スタッフステーションが病棟中央に配置されており、両側にある病棟を3方向から見渡せる設計で、患者さんのそばに医療スタッフがいる安心感を感じることができます。



9 階平面図

❶東側デイルームの展望スペース
ここからショッピングセンターや住宅街が一望できます

❷南側展望スペース
キャンパスタワーや校舎を望めます

❸一般病棟／1床病室
床のくぼみ部分にユニットバスが設置されます

❹一般病棟／4床病室
病室を仕切る骨組みが完成していました

❺南側スタッフステーション
設計関係者から説明を受ける小川理事長

1階フロア見学

1階フロアはエントランスから見学を開始し、吹き抜けラウンジや小児外来診察室を見学、その後時間外出入口から外に出て、救急車両出入口と救急処置室を見学しました。

救急処置室はドクターヘリポートや救急車両入口と直線的に結ばれる設計で、迅速な患者搬送を行うことができます。

1階平面図

❻ 吹き抜けラウンジのエスカレーター予定地
開院時にはエスカレーターが整備され、2階外来受付や外来待合に続きます

❼ 外来診察室
小児外来

❽ 防災センター前を通過する見学者
左奥にある窓口が防災センター

❾ 救急車両出入口
車両が中まで入れるため搬送時の雨風を防げます

❿ 救急処置室
写真右側が患者搬送口で処置用のベットが並びます

～取材を終えて～

見学会では矢巾新病院の随所に患者さんや病院スタッフのことを考慮した様々な工夫が施されているのを感じました。今後は内丸と矢巾の診療体制や引越し計画など運用面の詳細についても掲載していきたいと思います。

（大学報編集委員会事務局）

プレスリリース

うつ病早期支援のため社員向け短時間研修プログラムの開発
～職場でのメンタルヘルス不調の早期発見・早期介入に一歩前進～

医学部神経精神科学講座の大塚耕太郎教授は、九州大学大学院医学研究院の神庭重信教授（精神医学分野）、加藤隆弘講師（同上）らとの共同研究で、オーストラリアで市民向けに開発されている「メンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）」とよばれる心の応急対応法を基に、教育研修プログラムの独自開発に取り組んでいます。このプログラムは、一般企業の社員がメンタルヘルスの不調を抱える同僚や部下に適切に関わるための知識とスキルを２時間で習得することができる内容となっています。

今回、暫定版のプログラムをパイロット試験として実施したところ、受講者のアンケート結果から、特に不調者へ対応するスキルと自信の向上を認めました。今後、本教育研修プログラムを多くの職場で実施し、実際にメンタルヘルス不調の早期発見・早期治療につながるか、その有効性を検証する予定です。

■ 研究のポイント

２時間の社員向けプログラム 概要

導入（15分）

ー DVD を視聴し、メンタルヘルスの不調をもつ人に関わる難しさを議論する

講義（50分）

ー職場のメンタルヘルスの問題についての知識を学ぶ
ー５つの MHFA ステップ「り・は・あ・さ・る」を学ぶ

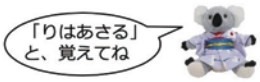
ロールプレイ（45分）

ー傾聴体験：相手の話を批判せずに聴くコツを習得
ー DVD 視聴後、メンタルヘルスの不調をもつ人へ適切に対応するシナリオを使って、具体的な対応法を習得

質疑・全体のディスカッション（10分）

メンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）５ステップによるアクションプラン

- **り** ①声をかけ、リスクを評価し支援を始めましょう
- **は** ②決めつけず、批判せずに話を聞きましょう
- **あ** ③安心につながる支援と情報を提供しましょう
- **さ** ④専門家のサポートを受けるよう勧めましょう
- **る** ⑤その他のヘルプやセルフヘルプ等のサポートを勧めましょう



本研究成果は、平成 30 年 12 月７日（金）午後２時（米国東部時間）に、オープンアクセスの国際科学雑誌「PLOS ONE」に掲載されました。

■ 研究者から一言

私たちのチーム（MHFA ジャパン）は国際的に普及しつつある 12 時間の「メンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）」プログラムを忙しい人々（医療従事者、弁護士、教師、会社員など）でも受講できるような短時間プログラムとして日本に導入しました。また、普及に向けてインストラクターの育成も行っています。日本中に MHFA が拡まることで、国民全体のメンタルヘルス向上が期待されます。

MHFA インストラクター研修会の様子

お知らせ

2019年 新年祝賀式

2019年新年祝賀式を以下のとおり挙行しますので、万障お繰り合わせのうえ、多数ご出席いただきますようお願いします。

■ 日 時：2019年１月４日（金）
　　午後４時～

■ 場 所：創立60周年記念館８階 研修室

お問い合せ先
企画調整課（7022,7023）

誌面の訂正とお詫び

大学報第 506 号の掲載内容に誤りがありましたので、次のとおり訂正の上、お詫び致します。
訂正箇所：８ページ　第 44 回盛岡地区病院対抗球技大会が開催されました

（正）	卓球	優勝	（誤）	卓球	準優勝
	バレーボール	準優勝		バレーボール	優勝

骨吸収の研究が日本骨代謝学会のホームページで紹介されました

薬学部 生物薬学講座 機能生化学分野の後藤（松元）奈緒美助教が4月30日付け英国Scientific Reports誌に発表した骨代謝のメカニズムに関する論文が、10月23日付けで日本骨代謝学会のホームページで紹介されました。

論文の内容は、骨を分解して骨密度を調節する破骨細胞において、要となる役割を果たす分泌リソソームの分子機構を解明したもので、骨粗鬆症や大理石病など骨代謝異常症の新規治療法の開発につながる発見として注目されています。ホームページには、後藤助教による論文サマリーや解説、苦労話なども掲載されています。紹介記事は、日本骨代謝学会ホームページ“1st Author”あるいは下記のURLからご覧になれます。

http://www.jsbmr.jp/1st_author/339_nmatsumoto.html

特殊災害（NBC）対応訓練が行われました

11月6日（火）、高度救命救急センター正面玄関において、特殊災害（NBC）対応訓練が行われ、医師、看護師、放射線技師、事務員など約30名が参加しました。

この訓練はウイルスの蔓延や化学物質の漏洩などの特殊災害が発生した際に対応できるよう関係部署の連携強化を目的としています。

今回の訓練では、化学剤を用いたテロ行為による患者受け入れを想定した訓練が行われ、参加者は患者動線を確保する方法や除染方法を学びました。

※NBC災害…nuclear（核）、biological（生物）、chemical（化学）による災害の総称。

医学部白衣授与式が行われました

11月8日（木）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、医学部第4学年124名を対象とした白衣授与式が行われました。この式は、臨床実習においてスチューデント・ドクターとして臨床の場に第一歩を踏み出す学生に白衣を授与することで、医師としての心構えをする節目の式典です。

祖父江学長は「患者さんの気持ちを理解できる、誠の医師となってほしい」と式辞を述べ、佐藤医学部長は「今日の白衣授与式を節目として、緊張感をもって実習に臨んでほしい」と激励しました。

白衣を授与された学生たちは、全員で「ヒポクラテスの誓詞」の九か条を唱和し、11月から始まる臨床実習に向けて医師の道を歩む決意を新たにしました。

ボイラー安全祈願祭が行われました

11月8日（木）、西病棟地下1階ボイラー室において、ボイラー安全祈願祭が行われ、本学関係者約20名が出席しました。

神官による神事では、祝詞奏上・清祓いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

なお、本学の今年度のボイラーデースローガンは「安全は 地道な点検 確かな操作」です。

看護部木の花会の講演会が行われました

11月16日（金）、歯学部4階講堂において、看護部木の花会の講演会が行われました。

今回は株式会社ベアレン醸造所代表取締役の木村剛氏をお招きして、「人をつなぐビールの話～地域に愛されるビールを目指して～」をテーマに講演いただきました。木村氏は盛岡市の出身で、大学を卒業後、大手酒造企業に就職しましたが、地元の方に愛されるビールをつくりたいという強い思いから独立し、2001年に同社を起業しました。多くの苦難を乗り越え、今では県内の全33市町村でビール祭りを開催するなど、知名度の高い、地元に密着した企業に成長させました。

講演会では、「ビールをきっかけに新しい友達ができたり、知り合いが増えたらうれしく思う。これからもビールで人と人をつないでいきたい。」と語りました。

第17回 Library+（ライブラリー プラス）「認知症サポーター養成講座」が行われました

11月24日（土）、附属図書館1階セミナー室において、本学図書館が主催する第17回Library+（ライブラリープラス）が行われ、学内外から43名が参加しました。

今回は「認知症サポーター養成講座～認知症を理解しよう！～」をテーマに、内科学講座神経内科・老年科分野の赤坂博助教が講師を務め、認知症の人やそのご家族への支援や見守りを行う認知症サポーター養成のための講義が行われました。

医学教育分野別評価による実地調査が行われました

11月27日（火）から30日（金）の４日間、矢巾キャンパスにおいて、一般社団法人 日本医学教育評価機構が実施する医学教育分野別評価による実地調査が行われました。

同機構は国際基準をふまえた医学教育分野別評価を通じ、医学と医療の発展に貢献することを目的としています。本学医学部はこの評価認定を目指し、座学講義の削減や専門科目の前倒し、臨床実習時間の拡大など、国際基準をふまえた質の高い医学教育の提供を行っています。

開会式で挨拶する評価者

矢巾新病院の関連施設 健康プラザの地鎮祭が行われました

11月27日（火）、矢巾新病院敷地内において、健康プラザ（愛称：コスモス館）の地鎮祭が行われ、工事の安全成就を祈願しました。

健康プラザには調剤薬局や健康増進施設等が入り、2019年6月末に竣工し、9月に営業開始の予定です。

<施　　主> MULプロパティ株式会社
<工　　期> 2018年12月1日～2019年6月30日（予定）
<延床面積> 1,676㎡
<構　　造> 鉄骨造、地上2階建
<建物用途> １階　調剤薬局、健康増進施設等
　　２階　テナント施設

がんゲノム医療キックオフ会議が行われました

11月28日（水）、循環器医療センター３階研修室において、がんゲノム医療キックオフ会議が行われました。

本学附属病院は、今年10月に厚生労働省から本県で唯一の連携病院に指定されています。今回の会議では本事業の進め方や診療科ごとの対象患者数の見込み等について報告・協議が行われました。

本事業の推進により、今後、効果の高い治療法の決定やゲノム情報に基づく創薬等が期待されます。

附属病院クリスマスコンサートが行われました

12月１日（土）、本学附属病院外来１階待合ロビーにおいて、クリスマスコンサートが行われました。

今回のコンサートは本学管弦楽団（教職員、学生オーケストラ部等により構成）と小児科病棟に入院中の盛岡青松支援学校の生徒さん、そして今年から本学学生ストリートダンスサークルも加わり、盛大に開催されました。

当日は、オーケストラ部OB扮するサンタクロースの指揮に合わせて「クリスマスフェスティバル」「ディズニーメドレー」などアンコール曲を含め計９曲が演奏されました。そのうち、「ふるさと」と「花は咲く」は盛岡青松支援学校の生徒さんとの合同演奏、「恋」と「恋するフォーチュンクッキー」はストリートダンスサークルとのコラボレーションにより披露され、入院患者さんやご家族など約100名の方々に一足早いクリスマス気分を味わっていただきました。

表彰の栄誉

岩手県こころのケアセンター 舟山 道夫 事務統括マネージャーが岩手県精神保健福祉協会長表彰を受賞しました

10月26日に久慈市文化会館（アンバーホール）にて開催された平成30年度第44回岩手県精神保健福祉大会において、岩手県こころのケアセンター舟山道夫事務統括マネージャーが岩手県精神保健福祉協会長表彰を受賞しました。

舟山事務統括マネージャーは、酒井明夫副学長（当時神経精神科学講座教授）をはじめとする岩手医科大学の支援のもと、平成20年にソーシャルサポートセンターもりおかの所長として開所に携わるとともに、翌年、岩手県精神科救急情報センターの設置・運営に取り組み、全県の精神科救急の相談体制の整備に努めました。平成26年からは岩手県こころのケアセンターにおける被災地支援を行い、長年にわたる本県の精神保健福祉の重要課題に貢献された功績が認められました。

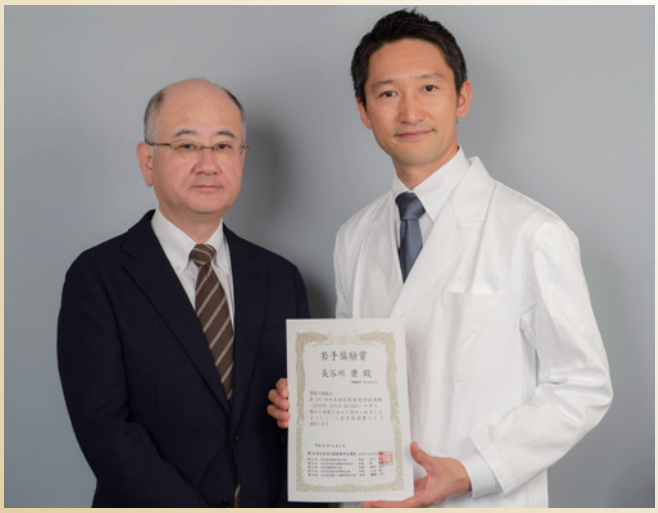
（文責：岩手県こころのケアセンター 副センター長 大塚 耕太郎）

外科学講座 長谷川 康 助教が第26回日本消化器関連学会週間（JDDW 2018 KOBE）で若手奨励賞を受賞しました

この度、第 26 回日本消化器関連学会週間（JDDW 2018 KOBE）（11 月 1 日から 4 日に神戸で開催）において、若手奨励賞を受賞しました。

演題名は「Safely extending the indications of laparoscopic major hepatectomy: When and which procedure should we start?」です。腹腔鏡下肝切除術は比較的新しい技術ですが、岩手医科大学では 20 年以上前からいち早く導入し、現在ではその分野のトップリーダーです。その経験を生かして、「腹腔鏡下肝切除の安全な普及」をテーマとして発表できたことを光栄に思います。今後も腹腔鏡下肝切除術の発展に努めてまいります。最後に、ご指導していただいた先生方に感謝申し上げます。

（文責：外科学講座 助教 長谷川 康）



（左から：佐々木教授、長谷川助教）

大学報原稿募集

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、サークル紹介、学報への感想など、幅広くお受けします（表紙写真も募集しています）。

また、特集してほしいテーマや各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしています。事務局までご連絡ください。

連絡先
大学報事務局（企画部企画調整課）
内線　7022、7023
kikaku@j.iwate-med.ac.jp

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第25回目の御芳名紹介です。（平成30年9月1日～平成30年10月31日）

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（5件）

<30,000,000>
株式会社　こずかたサービス（岩手県盛岡市）

<500,000>
医療法人社団　藤井内科医院（北海道浦河郡）

<100,000>
医療法人社団　ありまファミリークリニック（宮城県加美郡）
有限会社　渥美工務店（岩手県滝沢市）

<50,000>
株式会社　鎌田鈑金工業（岩手県花巻市）

●個人（14件）

<1,000,000>
俵　稔長（父母）

<100,000>
塩原 雄二郎（医24）
金子　勝（医27）

<30,000>
満川　元貞（医45）

<10,000>
髙嶋　幸生（父母）

<ご芳名のみ>
佐藤　元昭（医25）
遠藤　明（父母）
逢坂　宇一（医21）
小笠原　眞（医31）
小笠原 真弓（医32）
下田　咲子（薬5）
熊本　亮（医11）
千葉　泰久（医10）
安田　文（一般）

区　分	申込件数	寄付金額（円）
圭　陵　会	750	505,705,089
在学生ご父母	568	303,070,000
役員・名誉教授	75	98,020,000
教　職　員	184	26,172,000
一　般	82	29,750,000
法人・団体	271	878,518,000
合　計	1,930	1,841,235,089

（平成30年10月31日現在）

理事会報告　（9月定例－9月25日開催）

1.附属病院移転に係る資金借入について
2.平成30年度事業計画木の花会館立体駐車場の解体について
3.創立120周年記念事業募金の募集期間延長について
4.平成31年度事業計画書方針について
5.平成31年度予算編成方針について
6.教員の人事について
医学部産婦人科学講座　教授
馬場　長（前 京都大学大学院医学研究科器官外科学婦人科学産科学　准教授）
歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野　特任教授
宮本 郁也（前　同分野　准教授）
医歯薬総合研究所高エネルギー医学研究部門　准教授
寺崎 一典（前　同部門　講師）
（発令年月日　平成30年10月1日付）
7.組織規程の一部改正について

理事会報告　（10月定例－10月29日開催）

1.教育職員の定員に関する規程の一部改正について
2.店舗棟並びに保育園の名称及び健康プラザの愛称について
3.矢巾キャンパスA敷地改修工事に伴う工事施工業者の選定について

シリーズ 職場めぐり No.130

看護部（東9階）

東9階は、眼疾患を有する主に周術期の患者さんが入院し、病床数45床の病棟となっています。生後1ヶ月から100歳代と幅広い年代の患者さんの視機能回復に関わり、支援しています。当科は北東北3県の眼科医療を担っており、青森・秋田から入院される患者さんが多くなっています。また、緊急入院も多く、高齢者の転倒、顔面強打による眼球破裂や仕事中の金属片による受傷など多様なエピソードがあります。今まで見えていたものが突然見えなくなる喪失感、病状が長期化し今後の生活に不安を抱えている患者さんもいます。私たち看護師は、視覚障害に伴う不安や苦しみを理解し、患者さんが病状を受け入れその人らしく生活ができるように、身体面だけでなく精神面にも配慮した指導や援助を行っています。

患者さん一人ひとりに合わせた「思いやりとやさしさ」を備え、患者さんの視点に沿った看護の提供に努めています。

（主任看護師 佐々木 幸子）

医事課

医事課は、新患公費係、外来医事係、入院医事係、医事対策・保険係、救急センター係の5つの係で構成されております。職員が約60名、委託職員が約150名と大所帯となっております。

主な業務は、診療報酬の算定、請求および患者さんの受付等のサービスを行っており、医療事務全般の知識を習得し業務にあたっております。診療報酬については、患者さんの一部負担金の計算・請求書作成・料金徴収を行います。また、患者さんに請求する一部負担金を除く診療報酬を支払基金・国保連合会等に診療報酬明細書（いわゆるレセプト）を作成し請求を行っており、医療収入は岩手医科大学の収入の約7割を担っております。

2019年9月の病院移転により医事課は矢巾、内丸と2か所に分かれることとなりますが、長年培ってきた知識を両病院で限りなく発揮し、医師、看護師、他のコメディカルと十分に連携をとり、遺漏のない正確な診療報酬請求に努め、課員が一体となり病院移転が成功できるよう取り組んでまいります。

（課長 本舘 孝信）

《岩手医科大学報編集委員》

小川　彰　佐藤真結美
影山　雄太　菊池　初子
松政　正俊　工藤　正樹
齋野　朝幸　熊谷　佑子
藤本　康之　安保　淳一
白石　博久　佐々木忠司
成田　欣弥　畠山　正充
遊田由希子　藤村　尚子
佐藤　仁　武藤千恵子
小坂　未来　髙橋　慶
藤澤　美穂

編集後記

矢巾新病院の工事が日々着々と進んでいます。渡り廊下も着工されています。今号の特集は矢巾新病院の工事見学会の様子です。診療室内や待合室などの間仕切りが一部出来上がってきています。矢巾で今現在働いていても、新病院の外観はわかるのですが内部の様子はわかりません。以前、医・歯学部の教育・研究棟の工事見学の事を思い出しました。やはり新築はわくわくしますね。来年9月に矢巾新病院への移転を楽しみにして本号をお読み頂ければ幸いです。

（編集委員 齋野 朝幸）

岩手医科大学報　第507号

発行年月日　平成30年12月31日
発　行　学校法人岩手医科大学
編集委員長　小川　彰
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111（内線7023）
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印　刷　河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか

スポット薬学講座

No. 15

臨床薬学講座地域医療薬学分野　教授　高橋 寛

保険薬局における医療用麻薬の供給体制の調査研究

国民の２人に１人ががんに罹患し、３人に１人ががんで亡くなる時代になっています。がん患者に対する緩和医療が進むにつれ、医療用麻薬の処方も増加しています。当分野では、岩手県内の全保険薬局を対象に、Web上にてアンケートを実施し、医療用麻薬の供給体制の実情を調査しました。

医療用麻薬を取り扱うためには、麻薬小売業の免許（以下麻薬小売業とする）を取得する必要がありますが、麻薬小売業を取得している保険薬局の多くが、岩手県の10医療圏のうち特に盛岡医療圏に集中しています。（全体の42%）（図１）

また、麻薬小売業を取得した保険薬局の６割しか過去１年間に麻薬処方箋を受けておらず、その多くは年間の麻薬処方箋受付が20枚以下であり、一部の保険薬局に麻薬処方箋が集中していました。そのため麻薬小売業を取得していても、麻薬を在庫していない保険薬局が約２割存在し、医療用麻薬はどこの保険薬局でも供給できる体制にはなっていません。さらには、がん性疼痛以外で医療用麻薬の処方箋を応需した経験のある保険薬局は、約３割存在し、医療用麻薬がん疼痛緩和以外の多様な用途で処方されていました。

一方保険薬局では、医療用麻薬の服薬指導において、疾患名や告知の有無などの患者情報が医療機関から入手しにくいことや患者側の医療用麻薬に対する誤解や抵抗感などがあり十分な服薬指導が実施されていない実態が見えてきました。医療用麻薬の多様な用途に対応するための患者情報の共有や患者さんへの医療用麻薬に対する教育が医療用麻薬の情報提供を行う際の課題です。（図２）

医療用麻薬は返品ができないため保険薬局は在庫を躊躇しがちですが、がんの疼痛緩和など在宅医療を推進する上では必要な医薬品です。今後はがん性疼痛以外での使用など多様化する中で、医療用麻薬が広く処方されることが想定されます。供給のみならず、適正使用や副作用への対処、さらには未使用となった医療用麻薬の回収などまだまだ課題があります。物流の面だけでなく、患者情報の共有の面からも、地域の拠点薬局を中心とした医療用麻薬の供給体制を検討し、地域医療の発展に寄与したいと考えています。

円の大きさは
麻薬小売業免許の
取得率を示す

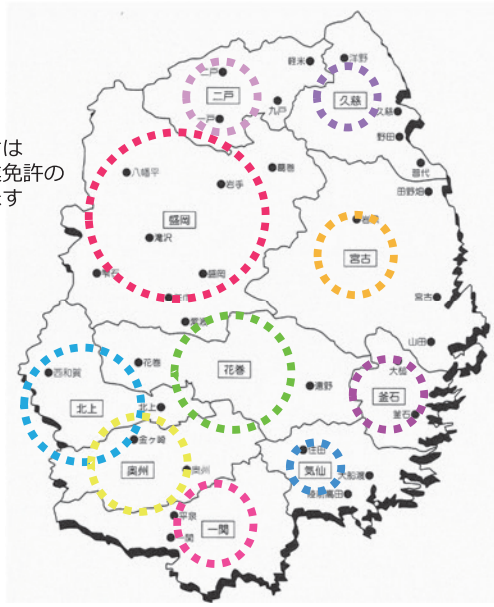


図１ 岩手県の 10 医療圏の地理的分布と薬局の麻薬小売業免許取得率

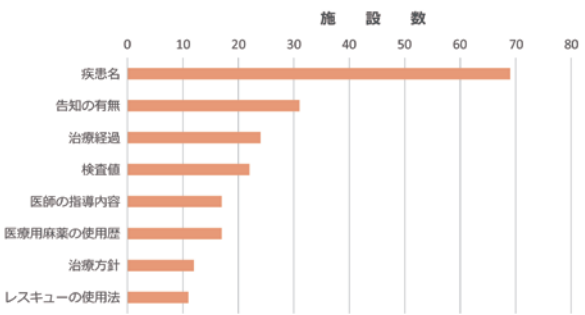


図２ 服薬指導をする上で保険薬局が医療機関に求める情報